

# 謎ときマルコ・ポーロ

マルコ・ポーロ／ルスティケッロ・ダ・ピーサ

『世界の記』

高田英樹 編訳



図1 ジェノヴァの牢でのマルコとルスティケッロ（出典不明, bing.com より）

マルコ・ポーロは謎に満ちる。その人物の存在から始まって、本当に東方に旅したのか、クビライの使臣となり諸方に派遣されたというのは事実か、実際に書いたのは誰かまで、いまだ一つとして解明をみたものはない。そうした大きな問題だけではない、その書の中には明らかな捏造や創作、不正確な記述や信じられぬような単純な誤りも多いし、いったい何のことなのか何を書こうとしたのか、判然とせぬものもある。そのことをさらに複雑にするのが、版による内容の大きな異なりで、とりわけ代表的な三つの版 F・Z・Rの間では、異なりは実に全体のおよそ三分の一にも及ぶ。したがってその書は、それら諸版にあたって読み比べ、「何処(どの稿本)に何(一体何のこと)が如何に(異なって)書かれているか、かつできうれば誰(情報提供者かマルコか筆録者ルステイケツロか後の写字生・編者か)によるのか」、を常に確かめる作業が必須となる。

このシリーズでは、そうした小さな謎の記事から始めて、上記三版だけでなくなるべく多くの稿本にあたって、何処に何が如何に異なって書かれているか検証し、ひいてはその人・旅・書にかかわる大きな謎にも迫ってみんとするものである。ついては、この同人 CD-R では紙幅に制約がないのを幸い、写本の紹介も兼ねて原本の複写と転記を併載し、かつ F・Z・R については英訳を付ける。英訳は、F を主底本とする厳密な逐語訳であるムールの英語集成訳(下記文献④)に基づき、他を参照して筆者が試みたものである(したがって試訳の段階であることをお許し戴きたい)。

デジタル技術は人間を様々な制約から解放したが、書物の世界でもそれは本を図書館と紙から解き放ちつつある。かつては古文書庫の奥深く仕舞われ、権威と物理的障害によって閉ざされていた写本は、オンライン図書館によって今やその多くがだれでも自由に閲覧できるものとなった。まだ言葉の壁はあるが、それもいずれは乗り越えられよう。どんな本でも、スマホをかざせば自分の望む言語で読むことのできる時代はそう遠くあるまい。本書は、そこに至る一

つ前の段階にあるもので、デジタル時代の新たな形の書物の試みである。

原典（複写）・転記・和訳・英訳・註と解説を兼ね備えたこの形を、筆者はひそかにオールインワン・マルコポーロと名付けている。それは、マルコ・ポーロの全てが一つに収められているというだけでなく、この一つによって全ての人々がマルコ・ポーロを知ることができる、という意味を込めたものである。実際、原文のみならず英・和の訳を併せ付すことによって、世界の半分以上の人々にとってそこにアクセスできるものとなったのではあるまいか。とまれ、まずは諸版を対校することによって初めて何のことか分る一つの典型的な記事から始めることとしよう。

その前に、写本とテキストについてごく簡単に触れておくと、200余の写本が今に伝わるが、形式と内容、用いられている言語と含まれている記事とによって、基本的に以下の七つの家族もしくはグループに分類される。1. フランク - イタリア語版 (F)、2. フランス語グレゴワール版 (FG)、3. トスカナ語（方言）版 (TA)、4. ヴェネト語（方言）版 (VA)、5. ピピヌス・ラテン語版 (P)、6. ラテン語セラダ版 (Z)、7. ラムージョのイタリア語版 (R)である。内容の点では二つの系もしくは大グループに分かれ、1 から 5 すなわち F・FG・TA・VA・P からなる F 系もしくは A グループと、6 と 7 すなわち Z と R からなる Z 系もしくはグループ B に分かれる。前者 F 系は、内容が基本的に一致するのに対して、後者 Z 系は前者 F 系にない大小・長短様々な記事を数多く持ち、その量は全体の約 3 分の 1 にのぼる。また、Z と R も相互に異なる記事を少なからずもつ。

今回用いる各グループの写本と、参照した校訂本は以下である  
([ ]内略号)。

- 1 F (フランク-イタリア語版) : 祖本 Rustichello da Pisa 1298  
MS: BNF, fr. 1116 [F] (フランス国立中央図書館、14世紀前半)  
L. F. Benedetto, *Marco Polo Il Milione*, Firenze Leo S. Olschki 1928.
- 2 FG (グレゴワール標準フランス語版) : 祖本 Grégoire 1307?  
MS: BNF, fr. 5631 [FA<sup>1</sup>] (フランス国立中央図書館)  
BNF, fr. 2810 [FA<sup>2</sup>] (同)  
British Library, Royal 19 D I [FB<sup>1</sup>] (大英図書館)  
Bodleian Library, Oxford, Bodley 264 [FB<sup>2</sup>] (オックスフォード大学ボ  
ドリアン図書館)  
Burgerbibliothek Bern, Cod. 125 [FB<sup>3</sup>] (ベルン市民図書館)  
M.G.Pauthier, *Le Livre de Marco Polo*, Paris Didot 1865.
- 3 TA (トスカナ語版 A系) : 祖本 Niccolo Ormanni 1309?  
MS: BNCF, II.IV.88 [TA<sup>1</sup>] (フィレンツェ国立中央図書館)  
BNCF, II.IV.136 [TA<sup>2</sup>] (同)  
R.M. Ruggieri, *Il Milione*, Firenze Olschki 1986(ルッジェーリ版 TA<sup>1</sup>)  
V.B. Pizzorusso, *Milione*, Milano Adelphi 1975(ピッツオルツォン版 TA<sup>2</sup>)
- 4 VA (ヴェネト語版 A系) : 祖本 14世紀前半  
MS: Bibl. Civica di Padova, CM 211. [VA<sup>3</sup>] (パドヴァ市図書館)  
A. Barbieri & A. Andreose *Il Milione Veneto*, Marsilio Venezia 1999.  
(バルビエーリ/アンドレオーセ版 VA<sup>3</sup>)  
H. Takata, *Marco Polo, Ms. CM211 della Biblioteca Civica di Padova*,  
Osaka International University 2000. (タカタ版 VA<sup>3</sup>)
- 5 P (ピピヌス・ラテン語版) : 祖本 Fra Franciscus Pipinus 1314-20?  
MS: Bibl. Riccardiana di Firenze, Riccardiano 983+2992. [P<sup>9</sup>]  
(フィレンツェ・リッカルディアーナ図書館、14世紀前半)  
L. Giovannini, *Marco Polo il Milione*, Roma Paoline 1985.  
(コロンブス版の復刻とイタリア語訳)

6 Z (ラテン語セラダ手稿本) : 祖本 14 世紀始め

MS: Archivio Capitulares de Toledo, Ms. 49.20.Zelada. [Z]

(トレド司教座聖堂古文書庫、c1470?)

*The Description of the World*, vol.II, by A.C. Moule & P. Pelliot, New York AMS Press 1976 (London 1938). [Moule-Z] (ムール版 Z)

A. Barbieri, *Marco Polo Milione*, Ms. Z, Parma Ugo Guanda 1998.

(バルビエーリ版 Z)

7 R (ラムージョ版イタリア語集成本) : 初版 Venezia, Aldo Manuzio 1559

Giovanni Battista Ramusio, 'Dei viaggi di messer Marco Polo, gentiluomo venetiano', *Delle Navigazioni et Viaggi*, In Venetia dalla Stamperia de Giunti, 1559. [R] (初版本)

転記は、できるかぎり原文どおり写すことを旨とし、校訂は以下に止める：

- 明らかな誤字・脱字・脱語・重複等は[ ]内に訂正する。
- 綴り・語形のゆれは固有名詞を含めて統一しない。
- 略字・略語およびラテン語の省略語尾は通常 of the 形に開く。
- ピリオド・カンマ・コロン・セミコロンを必要に応じて使う。
- アクセント記号は è (essere の 3 人称単数現在) にのみ付す (フランス語を含む)。
- 文頭および地名・人名は語頭を大文字に始める。
- ローマ数字は小文字で記し、前後をピリオドで挟む。
- 内容にのっとって適宜段落分けを施す。
- 太字は、F は Z・R との、他は F との異なりを示す。[ ] 内和訳者補足。

英訳には下記を参照した：

- ① Henry Yule & Henri Cordier, *The Book of Ser Marco Polo*, vol. 2, Amsterdam Philo Press 1975 (London 1871, 1903-20). (ポーチェの FG を底本とするユールの英訳)
- ② L.F.Benedetto, *Il Libro di Messer Marco Polo*, Milano-Roma, 1932.  
(ベネデットのイタリア語集成訳)

- ③ Aldo Ricci, *The Travels of Marco Polo*, London Routledge 1931. (②の英訳)
- ④ A.C.Moule & Paul Pelliot, *The Description of the World*, vol.I, New York AMS Press 1976 (London 1938). (Fを主底本とし17の主要テキストから採ったムールとペリオの英語集成訳)
- ⑤ Marsden-Komroff, *The Travels of Marco Polo the Venetian*, Liveright 1982 (1926). (Rの要約的英訳)
- ⑥ John Frampton- N.M.Penzer, *The most noble and famous travels of Marco Polo*, London The Argonaut Press 1929.
- ⑦ Ronald Latham: *Marco Polo The Travels*, Penguin Books 1958.

日本語訳と解説は下記から：

- ⑧ マルコ・ポーロ／ルスティケッロ・ダ・ピーサ (高田英樹訳)『世界の記「東方見聞録」対校訳』名古屋大学出版会 2013.  
(F・Z・R三版の全訳と章ごとの対校)
- ⑨ 高田英樹『マルコ・ポーロとルスティケッロ — 物語「世界の記」を読む』近代文藝社 2016. (⑧の註と解説)
- ⑩ 愛宕松男 訳註『東方見聞録』2巻、平凡社東洋文庫 1978. [愛宕]  
(③からの和訳)